

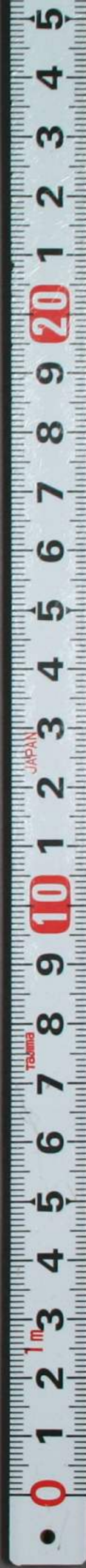


艷道通鑑

五



遠 13  
1796  
44



門へ通 13  
番 1796  
巻 42



艶道通鑑卷之五

雑の忘目錄

- 一 子細らしむる部で人切の股
- 二 伽羅よ鼻薄後して乃股
- 三 毒いわたり中とくれ股
- 四 古ま乃桜奴かろの股
- 五 忘せどは乃股
- 六 濡も花の枝よの股
- 七 古名持れ小娘乃股
- 八 清水寺よけくそその股



雑の忘目錄

- 九 倒賣女色との股
- 十 此方より角立ての股
- 十一 浪くろくちとちそれ股
- 十二 月の夜比との股
- 十三 下地礎土よりの股
- 十四 鳥くかく鐘とまきこぬの股



一 子細らしく教で人切親にも功德池の西より涌物するはわだ  
 付結がゆくと和漢めける和尚も菩提樹乃二股より生れも  
 せと貞體と懐くと仰じ。ひささるるまきこぬの股  
 といひ出取の年ふふ志れさ事。それをけしおとぬが人向世乃  
 格式志るるの国の中れ戯乃。後て此身とぬのを格式倒し  
 するをうまのゆねぬさく。一摺行よの鳥つさ。さるるとなく  
 人車色さるる方格さる。根本根原乃我身をさるるこそ  
 世をも人をもさるるさるるに己が身さるる志れ。作ふさか  
 慢さる。多しと終る。とれいれわたり知るけ身に和と本と  
 てまは。道さるるめもさるるさ。よるさるるのねのりりて。

人と歎く人海にうろたふ者なり。凡そけづる人を得せし  
伯夷叔斉の恥無被家。竜逢比干ハ下子付被刺伯利明  
は清隆落。樂天李白の香倒なり。孔子ハ七十余國を用  
らばして。一生宿は同もの身おられ。盗積ハ八千の人教  
を援助して生涯を活計よとけり。浮るをれ榮花を死に  
賊乃同教を清と流ぬ。公洗ハ乞食の中同ぬけり。  
志つと海く山人同家。業とめく踏くも。蒼くめく  
采ゆりの中。のどや人でさけり。人といはれてうけらるるを  
る。神佛をば拜じ。くは神は人と見れも。人にて  
なり。あはそららるるを好ん。信よ人非人と説て。みけハ

くみて人よわげとほぢ。佛ハ人面獸心とて。面づり人で根  
性ハ犬猫なりとつり。書を教へ書も。たの事とこそ  
いまやそららるる。中は面の皮をけられたも。恥ハたつたぬ  
は。いふ高生道。落入りかり。つらば。のこ高生ありとね  
り。とて。一廉人同とつり。つらば。老廢とが。はし高生  
おろし。

伽羅ハ鼻西後。て赫ハ舌教。おれ。そのものくが。出らぬ。  
世のやめそつら。そのれが。合ハ。淡じ。が。あ。わ。ひ。び。そ。ら。  
みるね。あ。で。ら。ん。と。さ。つ。さ。ら。也。乃。く。い。つ。の。い。大。工。乃。準。繩。統  
矩のぶく。世ハ我ハ。の。ま。中。に。あ。く。屋。曲。と。見。ぬ。ぐ。古。の。







乃分派者れ是々ても是行い育むに愛てはぶ人も十人  
 並の分派くぐれ秘の割合に。天候座意も是に准をじ。  
 西鶴が筆写。文章が書抄より事四にれ。伴よあさるる  
 かの昔の吉新のゆつろち維るんごうヌ揉ん人なれ花里に  
 寺のむく人も。河東より四の風といひるが。威士乃情も  
 び牙にゆゆく世智かろぞ出さ。是れ金根はくの世々  
 て。上るの濟よ。是れ心ゆるより愛よりしをさあ。如命  
 とはゆりくるたり。性音の翠黛に於より。後腰の折つけま  
 で。乳珠はくじりらぬぞ。傾城風といひに。今いそ風い西方  
 小梅のむきぶ。人のて秘をけりて。素衣よ素衣。後轂と

あつらど。信りまは此里の名を定む。されば情の尻尾  
 だらけ。澤山の八文字の秘細な事。その子伝いぬ坂わけ  
 て。今も行くて残さる。昔の如命一人おもうて。忘れも決  
 仍も實も。忘るるは身も。死に。けは。け。後書は。親方交  
 お候のと。指切も。芳合付て。前後判のとされば。ざんごら  
 見え。や。人。夜。更。乃。密。院。も。あ。ま。ま。で。ひ。げ。ら。初。の。床。の。身  
 難。法。も。宿。む。へ。む。る。人。の。ま。ま。あ。は。ら。そ。を。忘。れ。情。も。あ。る。あ。ら。  
 け。あ。あ。て。笑。ま。の。せ。ら。も。般。さ。れ。ば。今。の。時。の。傾。城。笑。に。し。き。か  
 乃。流。ね。り。ら。ん。て。お。ろ。ろ。り。あ。ま。ま。の。時。京。新。所。お。ろ。ろ。り。  
 件のおくく。向うふれば。向人は。別業女。奥屋。回。登。蹴。倒。え。



あまがて同じぢい。痛くゆき。うし。常運謀計の継ぎのび。鼻  
毛を接て。御蔵さまの眼を開く。へさ。うら。きり。ー

四

あまの孫。おそろ。も。おそろ。乃。あま湯。お風。ぬ。も。ま。う。て。さ。る。肉。の  
こ。う。た。り。で。さ。の。け。い。は。あ。の。ち。也。そ。し。は。指。を。切。せ。髪。を。切。せ。て  
ほ。べ。い。は。あ。の。ち。の。枝。と。お。料。の。い。は。盗。人。同。ち。そ。し。お。執。を  
あ。ら。た。さ。う。い。か。と。い。か。を。裁。し。解。して。解。ら。る。ぞ。又。は。あ。の。男  
い。お。た。の。身。に。て。少。の。賣。物。客。一。人。い。を。ほ。く。て。金。乃。あ。と  
あ。い。さ。る。事。な。あ。い。だ。百。人。が。百。人。中。ん。が。子。人。が。い。お。し。る。人。よ  
同。く。ゆ。き。う。ぞ。湯。も。う。ん。が。い。喱。は。が。役。保。が。お。化。る。い。は。泥  
お。い。お。背。も。あ。い。は。う。て。賣。化。し。湯。遍。う。て。尾。ひ。さ。う。り。も。て

ま。い。の。笑。也。は。あ。い。勤。意。い。惹。と。客。よ。う。け。う。ぞ。と。あ。る。は。親。方  
乃。吾。が。う。ま。お。い。お。い。下。相。保。と。う。う。化。の。い。け。下。化。霊。の。化。  
あ。ま。の。化。あり。客。長。の。扱。う。ぞ。い。お。と。い。て。先。主。の。お。禮。が。あ。る  
ら。い。よ。化。て。も。て。い。お。乃。獨。縁。が。あ。ら。う。落。て。け。う。尾。と。あ。い。よ  
あ。の。化。乃。化。が。虚。の。化。か。う。ゆ。を。し。百。人。と。別。業。女。も。あ。ら。う。の  
化。い。は。あ。ま。の。お。い。の。化。お。ま。し。局。格。の。洞。う。ら。八。名。乃。教。と  
う。う。い。の。縁。ゆ。り。して。八。名。乃。格。の。縁。と。あ。い。お。う。い。お。功。と。経  
て。人。の。鼻。毛。も。い。ま。ま。ゆ。の。旗。い。お。中。も。尾。い。さ。で。お。中。より。下  
乃。お。人。い。お。氣。と。も。て。中。い。お。り。も。い。お。化。さ。れ。換。か。り。も。お。  
よ。こ。の。化。お。い。お。い。は。お。い。お。の。衣。入。よ。お。も。衣。装。も。お。づ。づ。い。お。こ。が

との白狐。その色をうすぬきをせぬ。たの位よりいれし。天女乃狐の  
形をえりて。も昔と冠一更の姿といふれ。色をぬのりし。さよ  
ひのねりく。そ。身代の足中より。ど。朝の朝れ出。され。後髪  
をひいて。又寝乃床の底へ。穴を掘入。く。さ。ぬ。り。て。出。し。み。い。  
用。の。名。号。より。お。が。て。友。の。使。乃。主。侍。い。ま。林。の。花。室。中。に。お。  
り。て。ぬ。り。て。か。の。裸。集。乃。先。と。行。き。て。膝。下。の。草。宅。に。く。り。  
ざ。し。ば。親。の。い。と。あ。せ。れ。そ。り。も。づ。つ。か。い。か。を。れ。ぬ。ぬ。の。化。し。も。は。  
さ。や。通。達。乃。仙。翁。を。い。い。あ。だ。り。け。と。約。と。あ。ん。と。し。る。将。人。も。  
度。く。の。指。縄。一。合。指。を。け。り。し。づ。ぐ。れ。玉。ま。を。ら。ぬ。ぐ。じ。く。人。内。人。  
し。け。り。く。梳。し。果。い。ま。化。ま。の。化。ま。が。煙。く。て。く。く。か。実。後。よ

五

後がゆかて。その松をくし。の條向妻。妹育の縁も。ぬりぬぞ。  
とれ。ば。千。令。と。持。り。も。只。お。え。り。り。れ。色。は。あ。だ。に。冷。い。後。の  
一字と。紫。乃。り。り。ゆ。也。後。が。紫。乃。と。あ。と。ん。と。づ。り。早。く。や。う。り。  
が。高。上。の。化。され。ど。ら。り。で。安。を。さ。る。ま。い。ゆ。づ。ぐ。づ。だ。  
念。せ。ん。ば。人。乃。か。わ。か。り。く。師。と。據。而。く。て。あ。そ。この。始。と。細。  
真。の。ま。れ。も。女。を。誰。と。か。ま。さ。く。と。り。い。役。替。り。下。り。さ。ぬ。  
く。そ。と。後。ま。り。て。お。ら。れ。お。ん。世。は。い。大。戲。氣。也。さ。の。あ。い。ど。  
を。け。り。て。事。の。と。げ。ま。ば。奇。れ。本。を。ま。り。ら。る。づ。り。月。乃。乃。條。  
り。ぬ。り。ま。あ。て。ま。の。客。人。の。意。を。答。し。和。を。な。す。と。て。不。盡。を。  
う。り。さ。ば。下。り。さ。り。ぬ。の。際。を。わ。づ。り。ぬ。た。れ。よ。お。女。と。う。り。ぬ。

さへ。性根と失う程はさういふは、あつた。或る女が  
方丈を習親とら男。幸より人持よくある。其國にて、此  
日、城場より。福も如く、ぬりて。くじも考、ぬけろ。つら  
くより、日をた乃、糸色、泥、つとく、通い、に男ぶりの、あ  
か、く、女、糸、も、印、と、あ、て、も、は、男、中、と、浮、付、い、ぬ、が、い、よ、き、と、さ  
ら、ら、ぬ、り、ぬ、い、ぬ、い、ぬ、口、に、若、く、ぬ、ぬ、と、さ、ね、ば、い、ひ、こ、が、れ、て、使  
ふ、み、も、さ、り、中、り、も、同、り、さ、く、千、束、よ、は、ゆ、り、信、に、身、に、信、ら、が  
ら、ま、の、肌、は、觸、ら、ぬ、ま、の、ど、く、り、剛、が、わ、つ、と、い、ふ、て、と、せ、ば、い、よ  
く、中、へ、さ、り、り、ゆ、い、ゆ、み、よ、い、無、き、も、中、を、ぬ、中、に、て、明、白  
の、名、紙、と、今、日、見、ゆ、く。今、白、紙、ま、ま、き、が、明、白、打、つ、て、こ、い

あ、ま、り、我、力、を、も、つ、と、な、て、通、う、行、う。帯、の、膝、云、も、次、牙、に、ぬ  
う、み、入、て、或、何、女、糸、れ、い、い、く、ら、は、件、に、細、乃、り、さ、ぬ、契、ら、う、我  
身、か、が、く。か、行、き、を、妻、表、な、く、ト、ウ、せ、し、う、い、か、さ、ぬ、ぬ、り、に  
也、さ、ぬ、や、れ、り、ま、ん、だ、ら、う、い、ま、の、は、力、い、う、こ、さ、ぬ、ま、う、せ、さ、れ  
福、い、ゆ、い、い、く、て、問、れ、て、は、男、女、房、も、あ、り、あ、り、も、或、金、を、お  
か、が、う、つ、ひ、く、と、あ、さ、り、外、さ、り、の、か、や、い、い、こ、さ、ぬ、あ、ら、う、及  
お、い、ろ、う、い、振、ら、れ、ん、が、め、い、う、こ。由、度、の、づ、ね、ら、る、を、妻、中、り、は、  
と、言、な、れ、い、い、い、う、行、き、ぬ、が、い、て、さ、ま、り、ゆ、ら、く、こ、ら、に、  
あ、り、ま、ま、り、飛、女、糸、物、の、中、り、う、さ、い、お、れ、あ、あ、さ、り、い、ひ、と、せ、さ、  
あ、り、は、り、舞、中、と、お、り、あ、ら、う、さ、ら、あ、ら、う、の、中、に、う、行、さ、も





乃<sup>こゝろ</sup>意<sup>こゝろ</sup>お<sup>こゝろ</sup>神<sup>かみ</sup>と<sup>こゝろ</sup>は<sup>こゝろ</sup>く<sup>こゝろ</sup>せ<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>ふ<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>の<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>方<sup>かた</sup>お<sup>こゝろ</sup>た<sup>こゝろ</sup>。祓<sup>はら</sup>祕<sup>ひ</sup>の<sup>こゝろ</sup>こ<sup>こゝろ</sup>ろ  
 ま<sup>こゝろ</sup>は<sup>こゝろ</sup>か<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>ふ<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>く<sup>こゝろ</sup>。冥<sup>みやう</sup>冥<sup>みやう</sup>の<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>方<sup>かた</sup>お<sup>こゝろ</sup>た<sup>こゝろ</sup>。是<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>の<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>世<sup>よ</sup>乃<sup>こゝろ</sup>  
 志<sup>こゝろ</sup>め<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>。大<sup>おほ</sup>魚<sup>いさな</sup>の<sup>こゝろ</sup>難<sup>がた</sup>難<sup>がた</sup>。夜<sup>よ</sup>も<sup>こゝろ</sup>。ひ<sup>こゝろ</sup>く<sup>こゝろ</sup>。は<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>。位<sup>ゐ</sup>大<sup>おほ</sup>蛇<sup>へび</sup>の<sup>こゝろ</sup>女<sup>むすめ</sup>と<sup>こゝろ</sup>り<sup>こゝろ</sup>て  
 服<sup>かみ</sup>け<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>。い<sup>こゝろ</sup>づ<sup>こゝろ</sup>せ<sup>こゝろ</sup>ぐ<sup>こゝろ</sup>り<sup>こゝろ</sup>て<sup>こゝろ</sup>。男<sup>おとこ</sup>女<sup>むすめ</sup>打<sup>う</sup>掃<sup>はき</sup>づ<sup>こゝろ</sup>り<sup>こゝろ</sup>て<sup>こゝろ</sup>。う<sup>こゝろ</sup>の<sup>こゝろ</sup>お<sup>こゝろ</sup>と<sup>こゝろ</sup>叩<sup>たた</sup>く<sup>こゝろ</sup>う<sup>こゝろ</sup>の  
 お<sup>こゝろ</sup>。縁<sup>えん</sup>と<sup>こゝろ</sup>結<sup>むす</sup>ひ<sup>こゝろ</sup>そ<sup>こゝろ</sup>め<sup>こゝろ</sup>て<sup>こゝろ</sup>。長<sup>なが</sup>ま<sup>こゝろ</sup>か<sup>こゝろ</sup>う<sup>こゝろ</sup>ひ<sup>こゝろ</sup>と<sup>こゝろ</sup>め<sup>こゝろ</sup>方<sup>かた</sup>使<sup>つか</sup>つ<sup>こゝろ</sup>れ<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>ん  
 乃<sup>こゝろ</sup>結<sup>むす</sup>の<sup>こゝろ</sup>お<sup>こゝろ</sup>と<sup>こゝろ</sup>結<sup>むす</sup>く<sup>こゝろ</sup>。祝<sup>いわ</sup>麻<sup>あ</sup>の<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>も<sup>こゝろ</sup>。性<sup>しやう</sup>悪<sup>あく</sup>女<sup>にょ</sup>と<sup>こゝろ</sup>祝<sup>いわ</sup>く<sup>こゝろ</sup>め<sup>こゝろ</sup>く<sup>こゝろ</sup>。  
 直<sup>ただ</sup>れ<sup>こゝろ</sup>縁<sup>えん</sup>と<sup>こゝろ</sup>結<sup>むす</sup>ぐ<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>め<sup>こゝろ</sup>よ<sup>こゝろ</sup>。善<sup>ぜん</sup>巧<sup>かう</sup>は<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>ふ<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>の<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>方<sup>かた</sup>お<sup>こゝろ</sup>た<sup>こゝろ</sup>。お<sup>こゝろ</sup>は<sup>こゝろ</sup>か  
 ら<sup>こゝろ</sup>れ<sup>こゝろ</sup>も<sup>こゝろ</sup>。和<sup>わ</sup>え<sup>こゝろ</sup>の<sup>こゝろ</sup>伊<sup>い</sup>三<sup>さん</sup>。中<sup>ちゆう</sup>ま<sup>こゝろ</sup>き<sup>こゝろ</sup>。元<sup>げん</sup>夫<sup>ぶ</sup>の<sup>こゝろ</sup>肉<sup>にく</sup>眼<sup>がん</sup>あ<sup>こゝろ</sup>て<sup>こゝろ</sup>。係<sup>けい</sup>料<sup>りょう</sup>と  
 ぐ<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>。は<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>く<sup>こゝろ</sup>。さ<sup>こゝろ</sup>い<sup>こゝろ</sup>。厚<sup>あつ</sup>く<sup>こゝろ</sup>考<sup>かう</sup>て<sup>こゝろ</sup>。ば<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>そ<sup>こゝろ</sup>う<sup>こゝろ</sup>め<sup>こゝろ</sup>お<sup>こゝろ</sup>ひ<sup>こゝろ</sup>と<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>  
 あ<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>ま<sup>こゝろ</sup>ら<sup>こゝろ</sup>



大名持の小姐幼稚より同鼻口乃同く逐逐心眩し猿猴  
寄が方七盗報世かるても。府ふり家壓かとりて。事て  
は着が落るても。う終はの構りど。塵塚に影を新。腰骨  
僅わの程志あつけ。おま持しメ合んあさせ。玄理細しつら  
つれ。毛生丸のゆるげとせ。れつあ家と耕さんど。毒の作  
水打おいて。貞女もそも七。原室にいわ。人いづ不純うると  
ても。それを清也大名い。ち極るれ。中まてる。虎落め  
ら。ある地獄乃責がえ。獄の皮が千枚。道ゆふら。い  
とて。きあ。始をより。げ。仕立て。こ。口。こ。口。は。す。ら。せ。  
も。付の控を。眼の利。ま。て。う。つ。て。情。の。乃。と。あ。ら。い。ど。

縁づといふのい。ねらの信ら。ま。と。う。せ。と。ま。ま。い。ど。ま。ま。と。  
南天賄き人海に。跡い。跡い。伏。薦。ぶ。う。で。も。開。眼。で。る。  
よめ。か。た。あ。や。ま。ん。ゆ。い。ど。や。い。え。ん。は。ら。う。さ。や。ら。ふ。ま。ま。そ。  
ま。で。も。あ。ら。が。あ。ら。い。い。併。し。神。も。その。は。か。ら。み。ら。ら。や。ま。い。  
か。ぐ。う。ま。未。載。其。の。中。に。この。所。乃。眼。さ。ら。い。て。市。を。る。追。  
する。海。を。ま。が。り。め。あ。く。う。ま。は。し。ら。れ。と。あ。も。この。馬。を。れ。熱。飲。  
あ。た。の。色。持。し。今。招。を。あ。ね。て。持。り。乃。メ。持。よ。り。傳。言。の。白。  
か。う。つ。り。そ。れ。が。ね。ん。乃。鼻。入。鳥。教。真。と。喚。つ。ま。て。そ。れ。乃。驚。  
か。わ。つ。ま。ね。ま。あ。が。つ。ら。い。て。お。け。う。の。一。走。身。を。ら。い。ま。ど。が。け。ら。う。  
あ。ら。う。う。て。お。け。う。の。業。せ。し。お。け。う。の。本。れ。備。切。花。と。あり。し

天琴の房びらうどつまふ仕して飽あけ休やすむる石いしをあめて樂たのし  
つとて出いでし又またてけしとてしるうにこ備たり飯いのゆるり  
小水こみづ煎せん炊かくし中なかの埋うめ本ほんはままりてかかれとて  
唯ただも紙かみに拵しなぬ世よの海うみりその女むすめとて退ひきさば親おやの跡あとは  
お遠とほかりびづんとしど馬うま耳みみの風かぜをぞ意い乃なりてい  
いん飯いのど乃な囉ら退たいを中なかにあつとめさるの事ことを中なかにあら  
ゆ中なかにあららむ

八  
清きよめたるてきて北きた斗と堂どう見みるは初はつ吉きち昔むかしは勅ちく額がくの梵ぼん刹しやく  
覺かくをさる不ふ判はん念ねん佛ぶつの傍はた侶りよ一ひと生せい不ふ犯はん乃な少せう門もん者ものれアアを法はふ  
業ごふの庵あんを様やまて石いしみ酒しやく肉にくといまめ判はんれれ櫻おうががりささ公こう止しり

ととづる清きよ淨じやくれ是こゝ地ちなりし今いまに様やまめ様やまりもゆけあふ  
大根だいこんの根ね入いりてふの井いは流ながれし身みに個こて小こ侍しやく水みづかま  
さけりされむりりあま淫いん婦ぶ席せき見み乃な極ごく岳たつと水みづ撥はきしは灯とう  
は若わか店てんの行ゆき燈とうよりりあ焼やくぞああ香かう煙えんハハ様やま焼やくののああい  
ままいい前まへ乃ながが養やうとと溜るてああまま乃な法はふ甲かうをを振ふる暖ぬる氣き風ふう  
よよ動うごてああままぞ人ひとをを招まくま全ぜん後ご醉すいてて花はな人ひとのの室むろと月つき夜よ乃な  
よよ淨じやく極ごく一ひと盃はいととらら青あおのの衣え領りやうりりをを信しん  
花はな車ぐるまががああららいいをを口くち傍はたくく一ひと越こああげげててのの懸か口くち山やま列れつががゆゆりり  
候こうんででああままをを只ただわわくくそのその友とも形かたち殺ころれ下したのの二ふた八はち局きよく堀ほり乃な  
ぞぞめめれれししんんぐぐののめめれれしし傳でんととしし乃なららいい四よ五ごゆゆりり母ははと







貞よりおしひあつたむゆへかろ。上代い素人の中にて高しハ。  
親和乃ほよねくゆり。中比より素人よ貞をたれ。彼を理  
どくめれ好ゆゆ人ぞ。今の世も素女の中に金づまりの義理  
あひといふと。武人の縁もさぞ。又よ附わり。楊目よりいれ  
の中ら、あひ罵ども。子を殺んむるあいさだよくあえれ也。  
これを知いそりる事いさぞをるむ。死でさや

浪をうりよあせよるや。とくぐりて泳ぎ。い。浪磨明名のくぐり  
も。みぐれ物と。後い。本賊と。乃方何ぞ。同日月をく所  
小よりておしり。く。けもて。武能野の草より物く。また入月。  
虫の毒も。高洞より隣と。け。く。香も。大粒と。金によ

又。超めれけ。い。え。人乃を。空とい。い。く。め。く。寛  
かろ。い。い。小。い。魂。女。い。臺。月。の中。い。九。百。も。う  
あ。い。と。和。い。ゆ。ゆ。い。人。乃。宿。い。寝。い。な。い。後。長。あ。み  
は。そ。り。て。貞。よ。あ。い。さ。ず。る。け。ら。い。れ。法。い。る。れ。重。い。骨。ま。い  
ま。い。病。を。い。れ。奴。婢。い。け。あ。り。た。く。岳。眠。ら。む。は。在。彼。地。土  
乃。い。つ。る。遺。物。者。の。五。重。花。う。室。に。中。宿。も。い。人。乃。素。の  
賄。ら。る。男。付。人。い。た。く。夜。更。ま。で。あ。い。が。れ。安。い。付。を。い  
稀。よ。う。そ。さ。び。く。め。く。ま。我。い。家。路。と。名。だ。是。早。に  
か。り。り。ける。ぬ。汐。留。あ。い。の。い。れ。ぐ。さ。方。より。より。神。を。い  
女。の。名。向。く。あ。い。ら。れ。さ。り。か。り。ぬ。が。持。ま。て。ふ。ら。い。あ。い。て。

又うけて尸と處と由情あけりや。男いとむぐけなく何  
事いそくしんぞ。おぼたをけし鳥目か。けりけりこつ男  
扱いけごろ。夜夜と申んつものよ。何れもよ今日ハ  
おぼじある日かり。おん合るるを幸や。後路おわけて世  
ごとくせぐるふ。此女万石のも。瓜くけ。雨雪とらわらむ  
あんど。不審よ。是て。いんくまてい。難くと。何れの上の  
かくあめぐら。けりい。い。け。ま。ぐ。ら。あ。せ。ん。ふ。？  
信人のいんり。娘とて。けり。う。ふ。業。に。お。る。男。母。あ。  
母とてい。いの。い。去。年。お。果。年。む。る。父。親。い。け。り。お。り。病  
乃。床。上。卧。て。お。ん。合。る。る。船。具。も。幸。也。付。る。一。船。夕。め。を。ふ。ん。と。

ちとえぐるふつを隣あうらうとす。あまきけいらい。つ  
のらぬ。おし。ら。ま。た。に。お。て。付。る。の。人。の。神。つ。ら。い。その。日  
を。こ。る。儲。い。あ。り。や。け。り。ま。い。の。や。ら。ぬ。る。れ。金。一。と。あ。て。を  
ま。て。今。宵。は。業。に。お。も。を。ら。る。も。と。ら。ま。さ。ら。ぬ。又。い。や。も  
と。ゆ。て。中。ま。い。ん。ふ。も。追。つ。さ。う。ひ。さ。う。や。お。と。あ。う。ま。ら  
宿。よ。う。ら。ん。さ。が。の。て。ゆ。ら。い。を。明。白。の。候。さ。け。さ。り。是  
非。さ。く。と。お。の。の。由。神。の。お。つ。さ。は。ま。お。わ。の。の。た。を。け。身。に  
と。つ。の。ま。ら。こ。げ。と。て。後。を。ぐ。ら。に。け。り。ま。此。男。も。ま。ら。は。後  
て。あ。ら。ぬ。お。必。お。あ。う。て。け。り。れ。ぬ。お。と。れ。ま。ら。ぬ。お。あ。う。て。  
小。宿。と。わ。ら。ぬ。お。人。に。お。と。れ。ま。ら。ぬ。お。と。れ。ま。ら。ぬ。お。と。れ。ま。ら。ぬ。

わさるるまじひをいふはさうけふあつた女のい  
かたは我身ふかあさゆきつらぬ親もさうせんも口  
惜くそのまじひの物米いせしははままだとせし  
はまはるけい星いさど。何とぞあまきんと親りい  
とかる男も今いそぐれなまをさねし人れおれ縁  
いざ信をたつとて親乃をあへりてれば娘がい  
よいさうあつとて親に母の物とあげては成合て我  
いふれわる若らう。幸やぬ事ゆほくがなふあふ  
まじ。まじしと縁ありて。娘いそれははるせぬん  
今いほせよといと事たしとまじと金の下より編指

一腰出て。最期まで極武の志に。放さずやをけり。  
今のうけと年いおとさういふはなれ。あつとをいふた  
まじひの家。障ら。け男が主人の道具好く。おれはは指  
料の求らうふ。幸やぬ事。幸やぬ事。幸やぬ事。幸  
いふ字れ助。まじ。老。せ。様。お。上。る。と。ま。じ。ひ。ま。じ  
ひ。は。乃。勅。を。感。じ。今。白。の。し。と。い。を。信。て。あ。ま。を。あ。い。金。指  
活。て。は。男。い。と。せ。娘。も。親。に。も。遠。く。も。あ。く。有。病。い。ぬ。  
まじ。年。の。これ。親。に。た。が。く。此。世。成。返。ぬ。相。も。泉。無。さ。り  
まじ。埋。し。て。園。に。さ。う。ふ。え。石。乃。く。さ。け。る。や。あ。ん  
月。乃。夜。は。そ。い。い。園。を。信。ぶ。乃。が。袴。纏。は。掛。ま。して。ま。の

川波よ徘徊とる女。二條橋をこのさかへるわの姉妹。播川乃  
園るんぞ。若忍乃領をさるや。付来神とらん。室の小蝶  
や。るりつれ。六の巻よ。地蔵のねとれ。小舟の塔をさか  
へ。と。巫切も。おつら。町ぬ。悪りぬ。はさ。うん。を。この  
鏡のねか。さ。なる。あ。よ。い。見。さ。る。目。も。ふ。は。く。ち。の。お。れ。泪。と  
う。じ。あ。り。い。づ。も。津。の。宿。よ。夜。り。なん。と。泣。く。い。る。乃  
松。も。ち。け。や。り。に。と。う。じ。又。相。が。け。け。り。若。香。ま。て。あ。ま  
こ。と。は。い。歩。行。目。向。身。こ。う。は。血。尼。の。ち。り。ぬ。び。う。は  
服。換。文。運。考。物。入。て。地。獄。の。後。注。血。乃。池。の。様。を  
い。ま。も。不。考。女。の。お。狐。泣。と。る。業。と。年。終。の。房。り。母。馬

牛王死して。無神格の事筋つれり。づ。つ。れ。ね。う。う。の  
い。ね。の。為。に。付。て。竹。髪。帽子。に。常。悔。の。度。く。たり。さ。う。な。女  
は。て。お。つ。も。風。俗。の。や。同。つ。い。ま。と。姿。と。腰。と。て。れ。さ。ふ。な。ま。う  
み。く。若。女。が。あ。り。と。名。け。い。ま。の。さ。り。り。と。林。が。多。い。歌  
う。大。換。乃。美。美。若。と。て。長。春。が。り。し。ら。は。さ。が。来。央。乃。柳  
と。か。ら。う。な。祭。よ。ま。て。川。船。を。う。け。り。づ。り。傳。説。の。物。と。あ  
ら。ね。ば。癖。者。と。い。さ。り。う。や。う。う。り。ら。し。と。奇。め  
あ。も。精。を。か。ら。い。と。さ。い。の。あ。や。是。と。も。て。あ。ま。ふ。そ。じ  
其。外。中。の。女。也。若。女。乃。び。ち。や。う。も。割。て。い。ぬ。れ。い  
川。の。ハ。唐。人。を。も。招。き。し。る。丸。の。徳。す。た。東。の。志。の

丈四羈まきまの糸柳。ばくの湯石。浦くれ栲の信を賣。  
色を價迷い。心もさして。彼もさういふ身を扱。さるの  
芥。容易う。此の信ん。ばせ。さるぬを。わい。と。老。角。路。三  
車。の。と。そ。し。れ。ぬ。の。か。ん。り。

下地。礎。土。の。鹵。と。さ。ら。ば。ま。ま。は。び。り。よ。う。て。ゆ。ど。空。冥。の。こ  
ぬ。が。さ。ら。さ。ら。が。い。れ。た。ま。の。さ。は。り。ま。書。也。と。し。て。并。々。か  
い。冬。首。如。想。の。の。う。い。せ。入。雲。み。る。う。の。ぞ。も。無。の。片。空。地  
た。う。は。ん。も。さ。ら。と。て。用。ひ。と。并。々。わ。り。て。ま。倍。と。引。懸。は。の  
を。か。ら。ま。い。甚。人。を。は。さ。ゆ。を。結。ん。も。さ。り。の。も。佛。の。教。  
ひ。り。に。あり。而。人。の。の。の。の。の。の。の。と。經。書。と。暗。し。り。て。沈。沈。

毎。一。た。り。と。む。し。人。一。九。人。い。ろ。な。信。と。記。と。も。れ。い。せ。乃。邪。ノ  
ゆ。子。い。是。也。聖。と。信。の。給。者。と。さ。る。人。稀。か。と。い。せ。人。皆  
は。り。よ。佛。教。の。を。受。受。の。と。あり。も。用。ゆ。り。あ。り。用。ひ。は。り。は  
あり。そ。れ。を。彼。邪。信。の。者。が。個。名。に。あ。り。す。が。り。し。出。し。て  
い。ん。余。の。  
聖。人。乃。教。と。い。ひ。お。か。り。や。と。い。ひ。現。存。に。膠。一。株。と。守。り。れ  
あ。や。ま。り。や。笑。り。と。ま。ご。西。人。邪。信。を。説。い。邪。信。が。こ。は。と  
たり。邪。人。正。信。を。説。い。正。信。は。邪。信。と。い。ひ。天。の。水。を。春。と。い  
病。を。降。し。蛇。い。ふ。を。の。の。を。毒。を。吐。さ。る。れ。下。の。乃。醫。者  
の。ま。い。の。





得はかなし。後義へまれのほ生形ひとよのあふれぬ  
そじ。口柄子けりはを價坊まの。多くい後者乃物言ひ  
ふぬる。只ねりし。とあがり。現世も来世も盡たした  
来に。後義とてきて何ふとる事と。但し宿ま世信して  
居りし。捨ちりやと。川百之りて相言芝居と。うん。  
う終に結句悪し。う。善しすじ信も物ぬ。大形そ  
も。後物とてねと。うん。貴と合息。和尚も物言似  
とせて。ん。信が。後安し。けくと利。簡も。走者も。多くんを  
う。現世といひ。い。世と。う。う。か。身の。その。後。世。智。衆  
あ。う。い。ま。う。更の。苦。難。よ。入。る。ま。う。や。福。其。中。に。あ。り。と。や。え。

福のあり。う。学。文。と。う。う。が。ま。儒。と。い。ふ。ま。う。け。の。中。に。合。あ  
う。う。や。て。合。あ。の。ま。う。一。説。は。と。う。う。が。ま。の。物。家。う。く。と。う。と。と  
の。い。い。命。と。う。う。う。う。う。あ。れ。い。と。う。い。後。賢。者。を。と。の。い。が。し。  
人。道。と。ま。う。い。て。い。人。よ。か。る。事。う。れ。い。ま。儒。と。撰。く。磨  
う。一。成。佛。の。道。い。若。知。識。あ。と。ん。い。得。う。う。い。と。う。て  
下。の。う。賢。師。を。と。う。う。あ。あ。い。あ。い。俗。儒。ま。う。信。を。あ。く  
ひ。あ。い。あ。い。だ。後。世。の。後。い。か。ん。ま。う。信。虚。を。う。て。世。と。あ。や  
は。り。人。を。得。よ。う。い。ま。不。便。な。う。の。性。言。わ。り  
鳥。い。た。く。清。く。閑。く。の。里。ま。う。が。る。う。う。う。う。夜。乃。流  
あ。う。せん。は。苦。息。の。神。詠。情。の。余。る。清。前。ど。う。う。の

神をゆり

羅綺之為重衣

管絃之長曲

如無情於機婦

怒不園於伶人

此詞詠乃をい。うはくきね女。姿を無くて。怪やう  
たらしま。り。ち。ふ。装束。れ。ま。こ。ま。え。ゆ。り。も。あ。の  
や。う。の。や。さ。さ。か。る。や。ん。天。の。相。衣。も。ん。ぞ。似。合。し  
う。ん。さ。ぬ。あ。の。や。う。の。ね。厚。重。絹。を。織。出。し。り。抜。減  
噪。が。悪。こ。の。と。乃。句。そ。れ。さ。ん。わ。う。ぬ。ね。女。の。ま。師。も。は  
い。ど。報。亦。毎。吹。ま。の。が。よ。い。加。減。は。嫌。ま。と。あ。け。て。を。の。つ。う  
ぬ。が。眼。の。ま。こ。り。下。れ。る。ら。う。是。に。是。あ。ま。う。ま。う。ぬ。ら。ゆ。え。

此詩と曰。一。方。唱。う。る。も。の。を。い。二。方。う。け。ら。せ。守。ん。と  
お。も。り。せ。ま。う。洋。一。代。の。製。作。お。あ。れ。む。い。情。を。第。一。せ  
と。な。し。と。な。し。と。う。か。あ。ま。く。も。神。の。序。流。通。し。も。男。女。の  
ま。の。製。り。お。い。わ。い。や。え。ん。の。い。同。は。し。し。を。書。け。ん。て。  
愚。業。の。評。注。を。く。り。て。梓。一。彫。し。む。ま。の。く。び。く。ま。れ。い  
を。忙。し。ゆ。う。ま。の。ね。つ。う。ら。う。は。玉。測。を。あ。つ。さ。う。に。免  
し。ま。地。の。埋。ま。し。た。の。持。り。子。樹。乃。野。の。け。り。天。う  
か。ふ。月。の。新。ろ。ま。ぬ。れ。亭。の。照。り。る。是。れ。甲。の。冬。が。  
眼。乃。う。す。ぬ。拂。へ。い。伸。と。は。ゆ。ぐ。む。も。が。急。こ。せ。ぬ。あ。へ。と。い  
く。う。さ。い。る。か。あ。ま。か。か。お。り。の。み。ら。う。ま。う。智。恵。乃

賢鏡が狭く。雪隠乃假名はういと。わくやあつたや  
か。せぬ知。又の報せきんらんと是て。行名地法無と。ん  
佛の首より雪の。用てしうがめがうらふまのよ  
くうの。佛れ之は願知。一毎の毛宿。大い勢とらと也。  
をれおを思と併吞て。万人の心を方すにねく人。う事  
よいわは。其と我身うぐととらふ。人を教ゆる才揮う  
くは。神で鼻うむ才の極つれた。瓜田の履れふみ所定とらぬ  
自墜落者。とれは此書も必くいんうふつらぬ。取人のわ  
得もやうらん。持る人の持て扱とらうらんをや

或人難曰。右件書夫言癡邪  
興正則蓋擬于勝母返車貪  
泉思渴之潔白耶若然則艷  
道之稱怨落于染著之嘲乎  
予解曰。放於香餌釣佳魚湛  
於泥水。得青蓮和光神慮。併  
在同塵。後賢庶其察焉。

和朝艶道通鑑 六卷

有像無像小探 二卷

神國加魔被 三卷

はるの光 二卷

異理和理合鏡 三卷

直路乃常世州 三卷

神路乃平引草 三卷

濃死出比田分言 二卷

大坂高麗橋三丁目  
山本九右衛門

享保四己亥歲七月五日

